

構造特記仕様書

§ 1 一般事項

選択項目は◎印を適用し、○印が無い場合は＊印を適用する。  
○印が複数ある場合は、共に適用する。

1-1

使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2

設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書

2) 設計図

3) 標準図

○鉄筋コンクリート構造配筋標準図

・鉄骨工作標準図

・鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

・高強度せん断補強筋施工仕様書

・鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

○鉄骨構造標準図

4) 仕様書(○公共建築協会◎日本建築家協会)

5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6

1-3

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。

1-4

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。

第三者機関による検査・試験費用は工事費に(＊含む＊含まない)

1-5

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。

1-6

梁貫通位置、径、及び箇所数は(＊意匠図＊構造図＊設備図)による。

1-7

その他

§ 2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	○ルート1・ルート2・ルート3・
Y	○ルート1・ルート2・ルート3・

2-2

鉄筋の継手及び定着

構造計算ルート別による主筋等の継手重ね長さと柱に取り付く梁の定着長さ

◎建築基準法施行令第73条(政令第73条)による仕様規定

○日本建築学会 JASS5(2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説

○日本建築学会 RC標準2010

XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5 (2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC標準2010とすることができる。

§ 3 仮設工事、土工事

3-1

山留め、根切り

3-2

埋戻し土、盛土、残土処分

埋戻し土◎根切り土の中の良土・搬入良土

盛土◎根切り土の中の良土・搬入良土

残土処分・場内地均し◎場外搬出処分(＊自由 鑑定場所)

§ 4 地業工事

4-1

基礎及びスラブ下地業 (単位:mm)

場 所	捨てコンクリート厚さ	※(1)		厚 さ
		A: 砕 石	B: 割栗石	
基 礎	独立・布	◎50・60・100	◎A・B	＊60◎100・150・
	ベ タ	＊50・60・100	＊A・B	＊60・100・150・
地 中 梁	◎50・60・100	◎A・B	＊60◎100・150・	
	構造スラブ	＊50・60・100	＊A・B	＊60・100・150・
土間スラブ	屋内	＊50・60・100	◎A・B	＊60◎100・150・
	屋外	・50・60・100	＊A・B	・60＊100・150・

注 (1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。

(2) 端部aは100以上とする。



4-2

直接基礎

・ベタ基礎・布基礎◎独立基礎( )

・試験有無・載荷試験有無

設計地耐力 F1 深さ: GL-1.05m 長期許容支持力度 130 KN/m<sup>2</sup>

設計地耐力 F2 深さ: GL-1.05m 長期許容支持力度 140 KN/m<sup>2</sup>

設計地耐力 深さ: 長期許容支持力度 KN/m<sup>2</sup>

4-3

地盤改良

・無筋コンクリート地業・締固め工法・土壌改良工法(セメント系固化材投与)

・圧密排水工法

[・載荷試験]・行う(2箇所)＊行わない

[・一軸圧縮試験]・行う(3箇所)＊行わない

[・六価クロム溶出試験]・行う＊行わない

4-4

既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭

1) 杭種

・PHC杭・A種・B種・C種・

・回転貫入鋼管杭・

・CPRC杭・I種・II種・III種・IV種・V種・VI種

・節杭・A種・B種・C種・

2) 工法

・ハイエフイー(HiFB)工法(大臣認定 TACP-0493)(大臣認定 TACP-0258)

・埋込み工法・プレボーリングセメントミルク注入工法・プレボーリング拡大根固め工法(認定工法)

杭周固定液＊あり＊なし

・中掘拡大根固め工法(認定工法)

・回転埋設根固め工法(認定工法)

3) 杭径、設計耐力、本数表

杭 径 (杭底部) mm	長期 (kN)	短期 (kN)	終局 (kN)	本数	備 考

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強・かご筋・スタッド溶接・杭所周溶接

6) 杭仕様・施工計画書承認(打撃、圧力又は振動により設けられる基礎杭の打撃力等に対する構造耐力上の安全性を確保するための措置は、建築工事監理指針に従う)・杭施工結果報告書

4-5

場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法

・アースドリル工法・掘底アースドリル工法

・リバース工法・オールケーシング工法(・ペント工法・)

・BH工法・

2) 杭径、設計耐力、本数表(掘底後は施工径を示す)

杭 径 (杭底部) mm	管厚 mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備 考

3) 杭先端深さ SGL- m

4) 孔壁測定 (2方向)

＊行う(・全数・%)・行わない

5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合 JASS5 水中コンクリートによる。

コンクリート Fc (・普通ポルトランドセメント・高炉セメント B 種)

鉄筋・D 以下 SD295A・D 以上 SD345

・D 以上 SD390

鋼管 (リブ付)・SKK400・SKK490

4-6

杭打地業共通事項

1) [・杭長決定用先行杭・試験掘]・行う(本)＊行わない

2) 載荷試験・行う(箇所)長期設計耐力の3倍を確認する)＊行わない

3) S L 塗布・行う＊行わない

§ 5 鉄筋工事

5-1

材種

種 類	径	継 手
○SD295A	D 16 以下	◎重ね継手・スパイラル・工場溶接
○SD345	D 19 以上	・重ね継手◎溶接継手・機械継手(級)
・SD390	D 29 以上	＊溶接継手・機械継手(級)
・SD490	D 以上	＊溶接継手・機械継手(級)
・溶接金網		・重ね継手
・高強度せん断補強筋	・1275級 P	・重ね継手・スパイラル・工場溶接
	・785級 K	
	・685級 UD UR	

溶接継手＊ガス溶接・突き合せ溶接(D16以下は重ねアーク溶接でも可)

溶接部の検査(第三者機関による)

・抜取り検査・引張り試験(JISZ3120)

1検査ロットにつき＊3本・原則柱・梁の径毎に3本

◎超音波探傷試験(JISZ3062)・熱間押抜き試験

1検査ロットにつき◎30箇所

・不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。

1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数量で200箇所以内

5-3

梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-4

その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として◎①一般・②地反力を受けるとする。

鉄筋の組立は適切な位置にスパーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。

コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。

コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§ 6 コンクリート工事

※ コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工に関してはJASS5による

6-1

設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)

1) セメント◎普通ポルトランドセメント JIS R5210・高炉セメント B 種・低熱ポルトランドセメント JIS R5210・

2) 粗骨材・砂利◎砕石・高炉スラグ骨材・人工軽量骨材・再生骨材

最大径 (mm) ◎20・25・40

3) 躯体(使用区分は設計図の軸組図に示す)

○普通コンクリート

・Fc18・Fc21◎Fc24・Fc27・Fc30・Fc33・Fc36

・軽量コンクリート(＊1種・2種 気乾単位容積質量＊18.5・)

・LFC18・LFC21・LFC24・LFC27・LFC30・LFC

4) 土間コンクリート・Fc18◎Fc21(ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)

5) 捨てコンクリート◎Fc18

6) ラッブルコンクリート◎Fc18

7) かさ上げコンクリート・Fc・LFC(気乾単位容積質量＊18.5・)・膨張材

6-2 混和材◎AE減水剤◎高性能AE減水剤・躯体防水材・膨張材

6-3

箇 所	基礎、地中梁	一般部			
スラブ cm	15	15			
水セメント比 %	50以下	50以下			60 以下
単位水量 kg/m <sup>3</sup>	185以下	185以下			185 以下
単位セメント量 kg/m <sup>3</sup>	270以上	270以上			270 以上

[スラブ 空気量]

6-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)

1) 骨材[◎塩分含有量◎アルカリシカ反応性]＊行う・行わない

2) フレッシュコンクリート[◎スラブ◎空気量]＊行う・行わない

3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験＊行う・行わない

4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験・行う＊行わない

5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析)・行う＊行わない

6-5 調査(補正値は工事費に含む)

計画供用期間の級( )は耐久設計基準強度 Fd

・短期(18)＊標準(24)・長期(30)・超長期(36)

調査管理強度 Fm=Max(Fc, Fd)÷S S=3

材齢28日の調査強度 F は下記の両式を満足するものとする。

F≥Fm+1.73σ F≥0.85Fm+3σ

6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの場合	15℃以上 3日	17日	28日
材齢による場合	5℃以上 5日	25日	
	0℃以上 8日	28日	
圧縮試験による場合	5N/mm <sup>2</sup>	0.85Fcまたは12N/mm <sup>2</sup>	設計強度

6-7 住宅性能表示

劣化等級・等級2・等級3

劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる場合があるので注意すること。

6-8 Fc60を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書による。

§ 7 鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通 用 柱	内 外 柱	大 梁	ト レ ス	小 梁	他
一般構造用圧延鋼材	◎SS400・					○	○	
溶接構造用圧延鋼材	・SM400A・SM490A							
建築構造用圧延鋼材	◎SN400B・SN400C・SN490B・SN490C	○		○				
一般構造用角形鋼管	・STKR400・STKR490							
冷間成形角形鋼管	・BCR295・BCP235・BCP325							
熱間成形角形鋼管	・SHC400B・SHC400C・SHC490B・SHC490C							
一般構造用炭素鋼管	◎STK400・STK490	○						
一般構造用軽量鋼管	・SSC400・							

7-2 高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	＊S10T 全般
JIS形高力ボルト	・F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	◎F8T 母材が亜鉛メッキされている部分

7-3 普通ボルト、アンカーボルト

1) 材質◎SS400・SNR490(M 以上)・ABR400・ABR490・ABM400・ABM490(ABMは M24 以上)

2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による)・使用する・使用しない

7-4 頭付きスタッド

径	長 さ (mm)	使 用 箇 所
16φ	・80・100・120・150・	
19φ	・80・100・120・150・	
22φ	・100・120・150・150・	

7-5 溶接材料

1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選択する。

2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スクラップ形状＊スクラップ工法・ノンスクラップ工法

7-7 継手

	柱	梁
フランジ	・高力ボルト・現場溶接	◎高力ボルト・現場溶接
ウェブ	・高力ボルト・現場溶接	◎高力ボルト・現場溶接

7-8

溶接手法及び管理

使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。

7-9

デッキプレート (単位 mm)

1) 床用 高さ・板厚・

2) 合成スラブ用 高さ・板厚・

3) 型枠用 高さ・板厚・形板 タイプ

4) 防錆処理・プライマー・亜鉛メッキ・Z12・Z27

7-10

錆止め塗装 (工場塗 ＊2回・1回、現場タッチアップ程度とする)

1) 素地こしらえ＊ケレン・プラスト

2) 錆止め塗料

適用	塗 料	種 別	標準膜厚
室外	室内		
・	・	鉛、クロムフリー錆止め	JIS K5674
・	・	一般用錆止めペイント	JIS K5621
・	・	鉛丹錆止めペイント	JIS K5622
・	・	シアナミド鉛錆止めペイント	JIS K5625

3) 溶融亜鉛メッキ・○行う・行わない

7-11 溶接部の検査(受入検査)＊行う・行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。

2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるC1W検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。

3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。

4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007 付則6 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。

5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」2008により、合格判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。

6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表5.1溶接箇所数の数え方による。

7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。

a) 工場溶接の場合

i. 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。

ii. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。

iii. サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。

b) 現場溶接の場合

i. 全数検査とする。

8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。

9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」等を参考にする。

7-12 鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定 (グレード)					
S	H	①	R	J	・

§ 8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1

コンクリートブロック

1) 種類・A種・B種・C種

2) 厚さmm・100・120・150・190

8-2

ALCパネル

1) 使用箇所・床・屋根・外壁・内壁

2) 厚さmm・75(80)・100・120・150・175

3) 外壁取り付け構法

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	・スライド構法		
	・ロッキング構法		
横	・カバープレート構法		
	・ボルト止め構法		

8-3

押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さmm・

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	・ロッキング構法		
横	・スライド構法		

8-4

PCa板

1) 床及び屋根・床・屋根

・PCa板単独 厚さmm・

・合成板

PCa板厚さmm	現場打厚さmm	合計厚さmm	備 考

2) 外壁 厚さmm・

構造設計

株式会社 創設計  
伊波 克之  
一級建築士 第224803号  
構造設計一級建築士 第9039号

備考



有限三成工業 株式会社

TEL : 098-974-8001 沖縄県うるま市宇字堅1322-1  
TEL : 098-974-8059 代表取締役 平川 薫

工事名称

工事場所

奥志川運動公園多目的広場建設工事(建築)

うるま市宇大田地内

管理者

設計者

担当者

日付

日付

日付

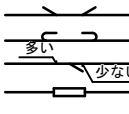
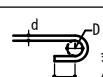
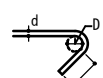
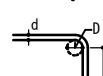
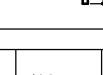
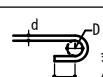
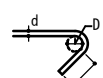
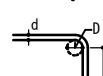
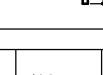
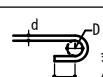
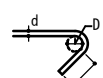
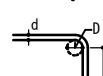
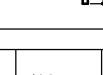
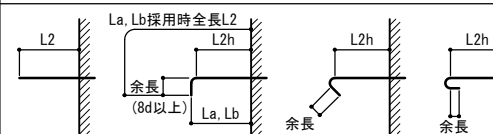
図面名称

図面NO

構造特記仕様書

No Scale

S - 01

1-1 基本事項          1-2 その他	<h2>§ 1 一般事項</h2> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。</li> <li>2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。 また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書 1～2～4 に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5（2015）」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。</li> <li>3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、d は呼び名に用いた数値とする。</li> <li>4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべて mm とする。</li> </ol>																																																																																			
	<h2>§ 2 共通事項</h2> <p>鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記 号</th><th>●</th><th>×</th><th>∅</th><th>●</th><th>○</th><th>◎</th><th>⊗</th><th>●</th><th>⊕</th><th>⊖</th><th>⊗</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>呼び径 d</td><td>D10</td><td>D13</td><td>D16</td><td>D19</td><td>D22</td><td>D25</td><td>D29</td><td>D32</td><td>D35</td><td>D38</td><td>D41</td></tr> <tr> <td>最外径 D</td><td>11</td><td>14</td><td>18</td><td>21</td><td>25</td><td>28</td><td>33</td><td>36</td><td>40</td><td>43</td><td>46</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フックのない場合</li> <li>・フックのある場合</li> <li>・本数に差がある場合</li> <li>・機械式継手表示</li> <li>・溶接継手表示（ガス圧接，突き合せ溶接）</li> </ul> 	記 号	●	×	∅	●	○	◎	⊗	●	⊕	⊖	⊗	呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41	最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46																																															
記 号	●	×	∅	●	○	◎	⊗	●	⊕	⊖	⊗																																																																									
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41																																																																									
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46																																																																									
2-2 鉄筋の 折り曲げ	<p>柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>折曲げ 角度</th><th>図</th><th>鉄筋の使用箇所 による呼称</th><th>鉄筋の 種類</th><th>鉄筋の 径による 区分</th><th>鉄筋の折曲げ内法 直径 (D)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>180°</td><td></td><td rowspan="2">柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あばら筋 スライラ筋 スラブ筋 壁筋</td><td>SD295</td><td>D16 以下</td><td>3d 以上</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>SD345</td><td>D19～ D41</td><td>4d 以上</td></tr> <tr> <td>135°</td><td></td><td></td><td>SD390</td><td>D41 以下</td><td>5d 以上</td></tr> <tr> <td>90°</td><td></td><td></td><td>SD490</td><td>D25 以下</td><td>5d 以上</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>D29～ D41</td><td>6d 以上</td></tr> </tbody> </table>	折曲げ 角度	図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の 種類	鉄筋の 径による 区分	鉄筋の折曲げ内法 直径 (D)	180°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あばら筋 スライラ筋 スラブ筋 壁筋	SD295	D16 以下	3d 以上			SD345	D19～ D41	4d 以上	135°			SD390	D41 以下	5d 以上	90°			SD490	D25 以下	5d 以上					D29～ D41	6d 以上																																																
折曲げ 角度	図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の 種類	鉄筋の 径による 区分	鉄筋の折曲げ内法 直径 (D)																																																																															
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あばら筋 スライラ筋 スラブ筋 壁筋	SD295	D16 以下	3d 以上																																																																															
			SD345	D19～ D41	4d 以上																																																																															
135°			SD390	D41 以下	5d 以上																																																																															
90°			SD490	D25 以下	5d 以上																																																																															
				D29～ D41	6d 以上																																																																															
2-3 鉄筋の定着 及び重ね継 手の長さ  「JASS5 (2015)」 に準拠	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">鉄筋の 種 類</th><th rowspan="3">コンクリートの 設計基準 強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th><th rowspan="3">重ね継手の 長 さ</th><th colspan="4">定着の長さ</th></tr> <tr> <th colspan="2">一 般</th><th colspan="2">小梁・床スラブ</th></tr> <tr> <th>上段 直線 L1</th><th>上段 直線 L2</th><th>上端筋</th><th>下端筋</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">SD295 (SD345) を示す</td><td rowspan="2">18</td><td>上段 フック付き L1h</td><td>下段 フック付き L2h, La</td><td></td><td>フック付き Lb</td><td>L3, L3h</td></tr> <tr> <td>45d (50d) 35d</td><td>40d 30d , 20d</td><td>15d (20d)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="2">21</td><td>40d (45d) 30d</td><td>35d 25d , 15(20)d</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>35d (40d) 25d (30d)</td><td>30d (35d) 20d (25d) , 15(20)d</td><td>15d</td><td></td><td>L3=20d L3h=10d</td></tr> <tr> <td rowspan="2">30～36</td><td>35d 25d</td><td>30d 20d , 15d</td><td></td><td></td><td>床スラブの 場合 L3=10d かつ 150 以上</td></tr> <tr> <td>30d (35d) 20d (25d)</td><td>25d (30d) 15d (20d) , 15d</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="6">SD390 (SD490) (-)は適用外</td><td rowspan="2">21</td><td>50d (-) 35d (-)</td><td>40d (-) 30d (-) , 20d (-)</td><td>20d (-)</td><td></td><td>SD490 は適用外</td></tr> <tr> <td>45d (55d) 35d (45d)</td><td>40d (45d) 30d (35d) , 20(25)d</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="2">30～36</td><td>40d (50d) 30d (35d)</td><td>40d (40d) 25d (30d) , 20(25)d</td><td>15d (-)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>40d (45d) 30d (35d)</td><td>40d (40d) 25d (30d) , 15(20)d</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="2">48～60</td><td>35d (40d) 25d (30d)</td><td>40d (40d) 20d (25d) , 15(20)d</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>一般定着の直線 L2 またはフック付きの L2h, La, Lb の図</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きの L2h は仕口面からの鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。</li> <li>2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。</li> </ol>	鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準 強度 (N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手の 長 さ	定着の長さ				一 般		小梁・床スラブ		上段 直線 L1	上段 直線 L2	上端筋	下端筋	SD295 (SD345) を示す	18	上段 フック付き L1h	下段 フック付き L2h, La		フック付き Lb	L3, L3h	45d (50d) 35d	40d 30d , 20d	15d (20d)			21	40d (45d) 30d	35d 25d , 15(20)d				35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d) , 15(20)d	15d		L3=20d L3h=10d	30～36	35d 25d	30d 20d , 15d			床スラブの 場合 L3=10d かつ 150 以上	30d (35d) 20d (25d)	25d (30d) 15d (20d) , 15d				SD390 (SD490) (-)は適用外	21	50d (-) 35d (-)	40d (-) 30d (-) , 20d (-)	20d (-)		SD490 は適用外	45d (55d) 35d (45d)	40d (45d) 30d (35d) , 20(25)d				30～36	40d (50d) 30d (35d)	40d (40d) 25d (30d) , 20(25)d	15d (-)			40d (45d) 30d (35d)	40d (40d) 25d (30d) , 15(20)d				48～60	35d (40d) 25d (30d)	40d (40d) 20d (25d) , 15(20)d								
鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準 強度 (N/mm <sup>2</sup> )				重ね継手の 長 さ	定着の長さ																																																																														
						一 般		小梁・床スラブ																																																																												
		上段 直線 L1	上段 直線 L2	上端筋		下端筋																																																																														
SD295 (SD345) を示す	18	上段 フック付き L1h	下段 フック付き L2h, La		フック付き Lb	L3, L3h																																																																														
		45d (50d) 35d	40d 30d , 20d	15d (20d)																																																																																
	21	40d (45d) 30d	35d 25d , 15(20)d																																																																																	
		35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d) , 15(20)d	15d		L3=20d L3h=10d																																																																														
	30～36	35d 25d	30d 20d , 15d			床スラブの 場合 L3=10d かつ 150 以上																																																																														
		30d (35d) 20d (25d)	25d (30d) 15d (20d) , 15d																																																																																	
SD390 (SD490) (-)は適用外	21	50d (-) 35d (-)	40d (-) 30d (-) , 20d (-)	20d (-)		SD490 は適用外																																																																														
		45d (55d) 35d (45d)	40d (45d) 30d (35d) , 20(25)d																																																																																	
	30～36	40d (50d) 30d (35d)	40d (40d) 25d (30d) , 20(25)d	15d (-)																																																																																
		40d (45d) 30d (35d)	40d (40d) 25d (30d) , 15(20)d																																																																																	
	48～60	35d (40d) 25d (30d)	40d (40d) 20d (25d) , 15(20)d																																																																																	

4-4 補 助 筋		腹 筋	D < 600 不要
			600 ≤ D < 900 2-D10 (1 段)
			900 ≤ D < 1200 4-D10 (2 段)
			1200 ≤ D D10 @ 300 以内
			巾止筋 D10 @ 1000 以内で割り付ける。
		受 筋 つ 筋	D10 @ 1000 以内で割り付ける。

定着

(又は8g以上)  
※  
L2  
斜め可  
下向き可  
斜め可  
D' D  
D' H  
B L3h 以上  
O/6 O/4  
不連続端(外端) 連続端(内端)

余長L2とする

4-6  
基礎梁及び  
基礎小梁

※地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-4項および設計図に示す。  
余長は  $L_1$  ( $L_1 \geq \min(D', L_2)$ ) とする。

[illegible]

b)基礎小梁の継手及び定着

① 地反力を受けない場合は(4-5)による。  
② 地反力を受ける場合。

・印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は柱面（基礎小梁の場合は梁面）より500以上はなすこと。Lbとれない場合4-5a定着によつてよい。

5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着

外周部は8d以上折り曲げる

※LbかつB/2以上

15d以上

肩筋D13以上

※4-5a) 定着に同じ

$\delta \leq \delta_y$

5-3 片持ちスラブ

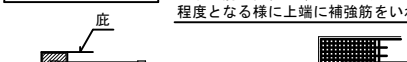
図5-3 片持ちスラブラーの断面図

この図は、片持ちスラブラーの断面を示しています。スラブの厚さは20d以上又はL3hと指定されています。スラブの端部には、受筋D13が4dの長さで埋め込まれています。また、スラブの端部には、L2の長さで埋め込まれた筋材が示されています。

Figure 10 illustrates the reinforcement details for a slab-column joint. The left diagram shows a cross-section of the slab with reinforcement L1, D13 bars, and a 45-degree bent-up bar. Dimensions include 200mm for the bent-up bar length and 'S' for the slab thickness. The right diagram shows a top-down view of the joint with D13 bars and D10@200 (double) cross-hatching. A dimension of 1,000mm is shown for the joint width.

**屋上スラブ隅角補強**

スラブ筋と同径で1/2ピッチ以下（≒@100）程度となる様に上端に補強筋をいれる



補強範囲

鉄筋による方法

縦横共  
6φ@100

溶接金網による方法

6-1 定着及び継手

図 6-1 定着及び継手

① 横筋の定着

② 縦筋の定着

③ 土圧を受ける壁の定着

図 6-1 は、コンクリート壁の定着及び継手の詳細図を示す。図は 3 つの部分に分かれている。① 横筋の定着：横筋が柱と梁に定着する様子。柱側の定着長は  $L_2$ 、梁側の定着長は  $\approx L_2$  と示されている。② 縦筋の定着：縦筋が柱と梁に定着する様子。柱側の定着長は  $L_1+50$ 、梁側の定着長は  $\approx L_2$  と示されている。また、縦筋の直径は  $\phi$  と示されている。③ 土圧を受ける壁の定着：土圧を受ける壁の定着様子。壁の厚さは  $L_2$ 、土圧を受ける側の定着長は  $L_2$  と示されている。また、土圧を受ける側の定着長は  $150$  以上と示されている。また、縦筋は、縦筋と同径同ピッチとする。梁の上面までのばす。土圧を受ける壁。150以上

鉄筋による方法

溶接金網による方法

※斜筋を縦・横補強筋で置きかえる場合は設計者の指示による。  
 ※斜筋は内側に配置する。壁筋を切断しない場合は補強を要しない。

Figure 10 illustrates the reinforcement details for beam-column joints, categorized into two main sections: 交差部 (Intersection) and 端部 (End).


**交差部 (Intersection):** This section shows four diagrams illustrating different reinforcement configurations for the joint. The top row shows the reinforcement layout with labels: 継手L1 (Joint L1), 支筋L2 (Support bar L2), and the resulting reinforcement layout (D13, 2-D13, 4-D13).

**端部 (End):** This section shows two diagrams illustrating reinforcement details for the end of the beam. The top row shows the reinforcement layout with labels: 耐震壁の場合はフックを付ける (If seismic wall, attach hook) and 200 (耐震壁の場合) (200 (if seismic wall)). The bottom row shows the resulting reinforcement layout with labels: 120以下 (120 or less), 150, and 150以上 (150 or more).

Additional notes include: 開口補強筋はリストによる。 (Reinforcement for openings is by list).

**スリット** 完全スリットの場合

スリット材 (梁) t W2 250 250 W1 250 D10@400程度 (防錆処理) スリット材 D10@400程度 (防錆処理) スリット スリット幅 W1 ≥ 25 かつスリット長さの1/10 W2 ≥ 15

§ 7	基礎	
7-1	独立基礎	 <p>ただしかぶり厚さ50（軽量コンクリートの場合60）の場合は不要</p>

7-2 杭 基 礎

・ 1本杭で偏心していない場合は、立上り筋不要。

・ 杭頭補強筋は設計図による。

・ 杭頭を切断した場合の補強は、設計者の指示による。

7-3  
べた基礎  
継手及び  
定着


継手位置は5-2項の上端筋を下端筋に読み替える。

※Lb/2以上

※4-5a)上端筋定着に同じ

15d以上

7-4 基礎と基礎梁

補強部  の厚さは梁巾とする。

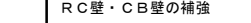
- ・H は、500 < H ≤ 1000
- ・H ≤ 500は、※印筋は、不用とする

[illegible]

スラブ階段

8-2  
土間コンクリート

R C壁・C B壁の補強



D13  
D10  
t  
2t  
L2  
D10@200,  $\phi=400$   
500以上

8-3 打増し補強

→ D10@200(共通)

300以上 t 補強筋 柱

300以上 t 補強筋 梁

腹筋に準ずる 300以上 t 補強筋

- は、打増し部分を示す。
- 補強筋（定着は20d以上）

$t \leq 50$	補強なし	$50 < t \leq 100$	D13@300
$100 < t \leq 200$	D16@300	$200 < t \leq 300$	D16@200
$t > 300$	設計図による		

8-4  
増築予定

柱

梁

スラブ

壁

500以上

50

500以上

50

500以上


50

500以上

50

梁主筋は原則として  
すべて定着する

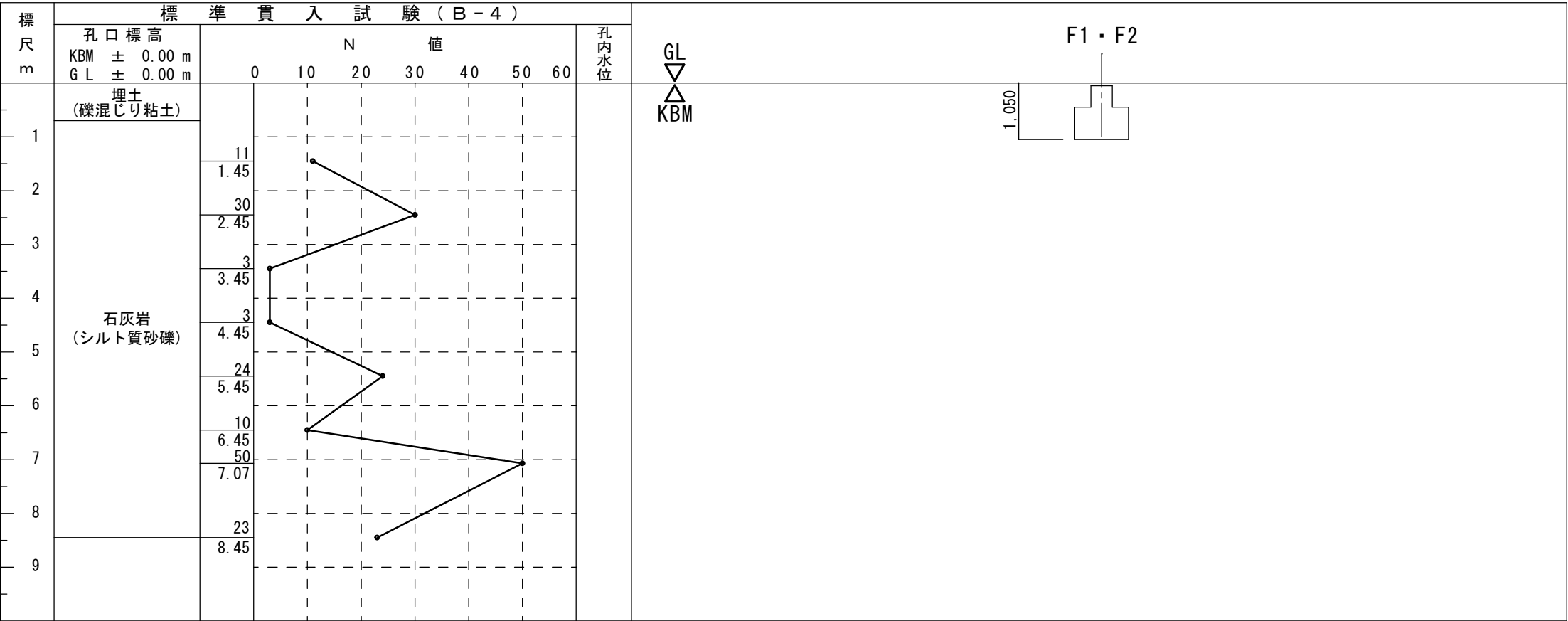
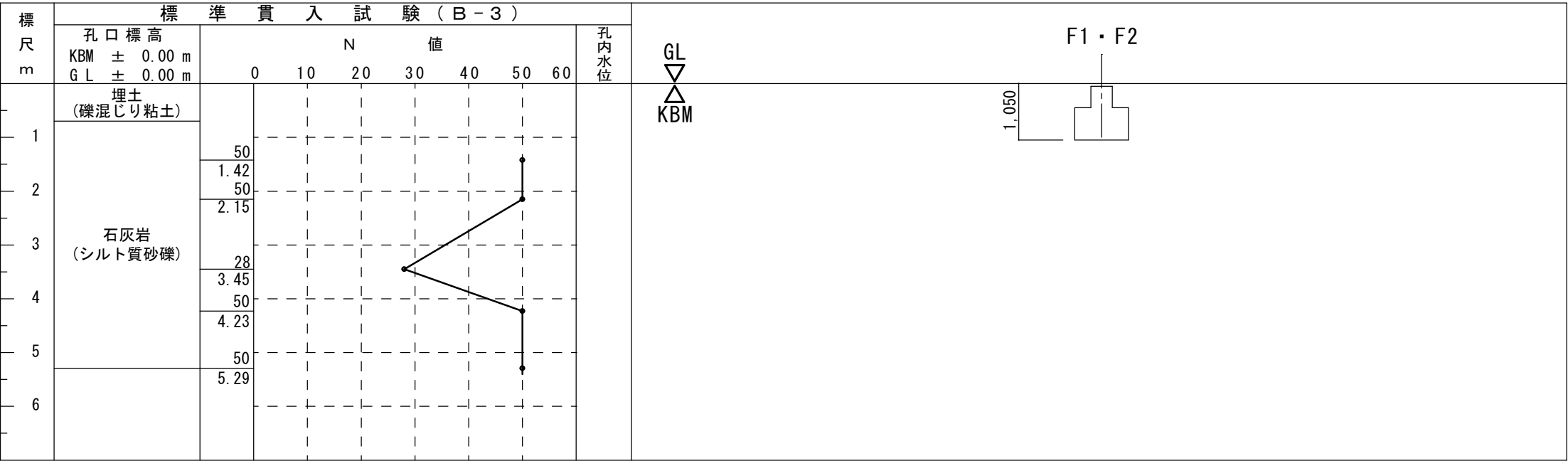
通し配筋可

- ・  は、はつり部分を示す。
- ・ 増築時の継手は、原則として柱・梁の主筋は溶接継手とする。  
(増築側の鉄筋は水平定着でもよい。)

構造設計	株式会社 創設計 伊波 克之 一級建築士 第224803号 構造設計一級建築士 第9039号
------	---







構造設計	株式会社 創設計
	伊波 克之
	一級建築士 第224803号
構造設計一級建築士 第9039号	

備考

有限三成工業  
会社

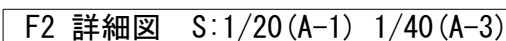
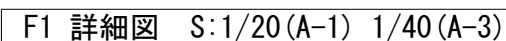
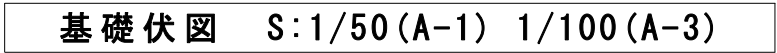
TEL : 098-974-8001 沖縄県うるま市宇堅1322-1  
TEL : 098-974-8059 代表取締役 平川 薫


工事名称	具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)
工事場所	うるま市宇大田地内

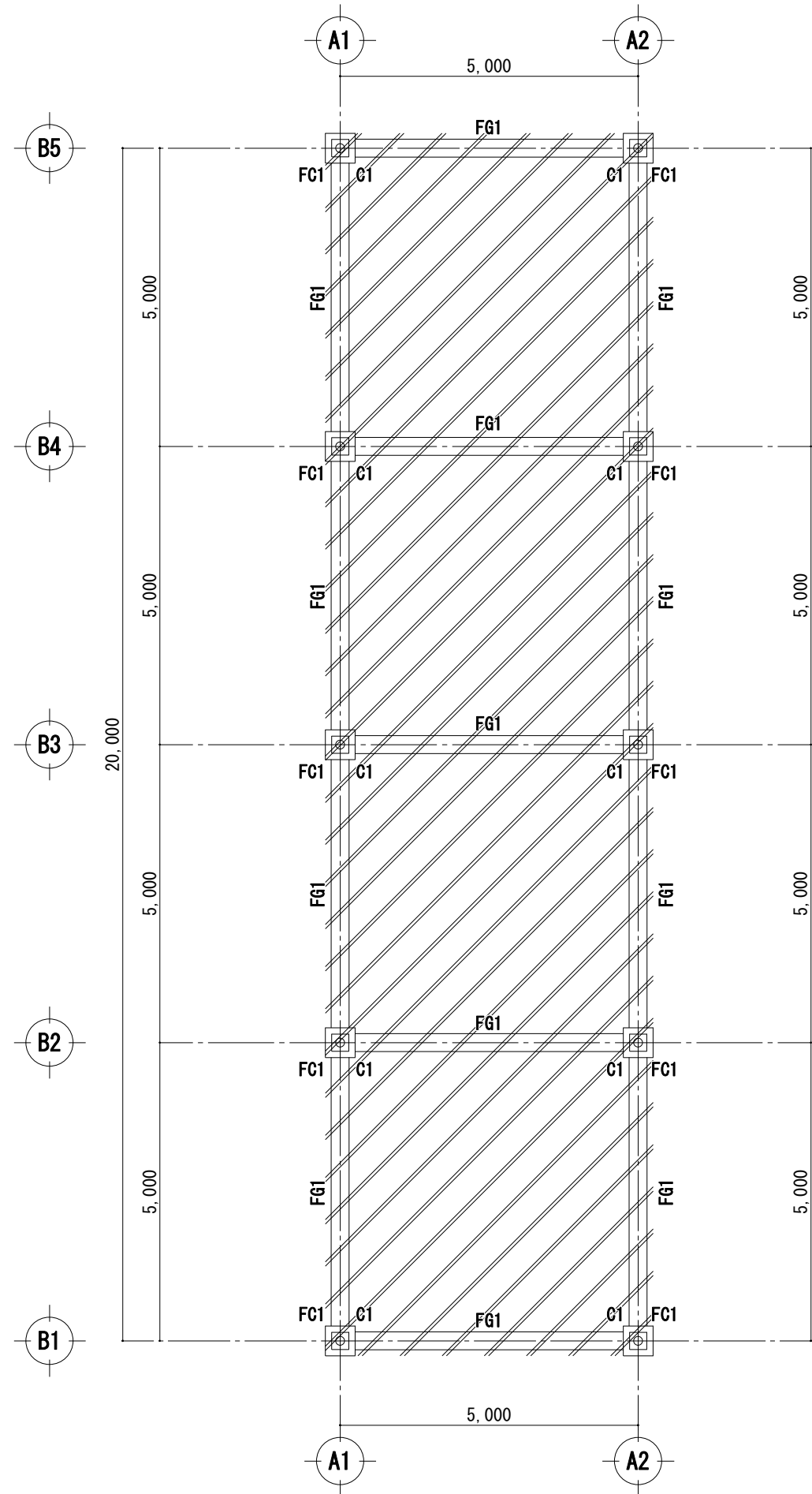
管理者	設計者	担当者
日付	日付	日付

図面名称	柱状図
縮尺	No Scale

図面NO
S-06

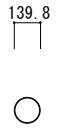


備考	 有限 三成工業 会社	TEL: 098-974-8001 沖縄県うるま市宇字堅1322-1 TEL: 098-974-8059 代表取締役 平川 薫	工事名称	具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)	管理者	設計者	担当者	図面名称	図面NO	
			工事場所	うるま市宇大田地内	日付	日付	日付	箱尺		基礎伏図
										図示



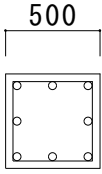
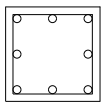
1 階 梁 伏 図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)

柱リスト(S造) S:1/20(A-1) 1/40(A-3)

記 号	C 1	
位 置	全断面	
断 面		
名 称	○ - 139.8x4	
材 質	STKR400	
備 考		

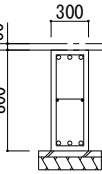
柱断面リスト(RC造) S:1/20(A-1) 1/40(A-3)

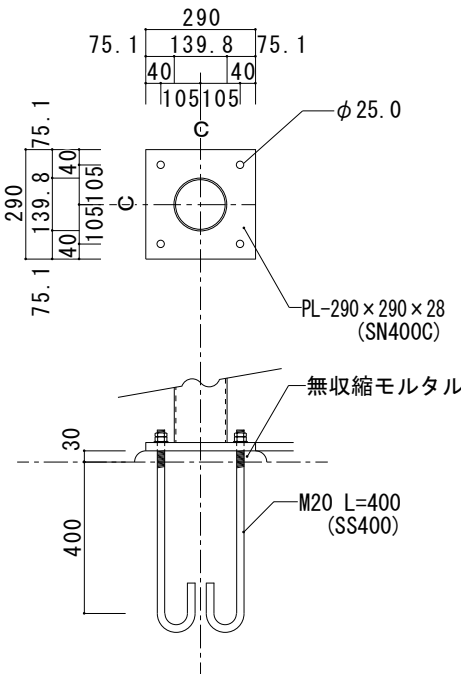
※特記なきパネルゾーンの帯筋は、下図と同様とする。

符 号	FC1	
位 置	全断面	
断 面	X 方向	Y 方向
		
主 筋	1段筋 3-D22	3-D22
	2段筋 —	—
帯 筋	□ -D10-@100	

※特記なき限り、幅止め筋D10@1000以内

地中梁 断面リスト S:1/30(A-1) S1/60(A-3)

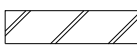
符 号	FG1		
位 置	全断面		
断 面			
上端筋	1段筋 3-D22		
	2段筋 —		
下端筋	2段筋 —		
	1段筋 3-D22		
あばら筋	□ -D10-@200		
腹筋	2-D10		



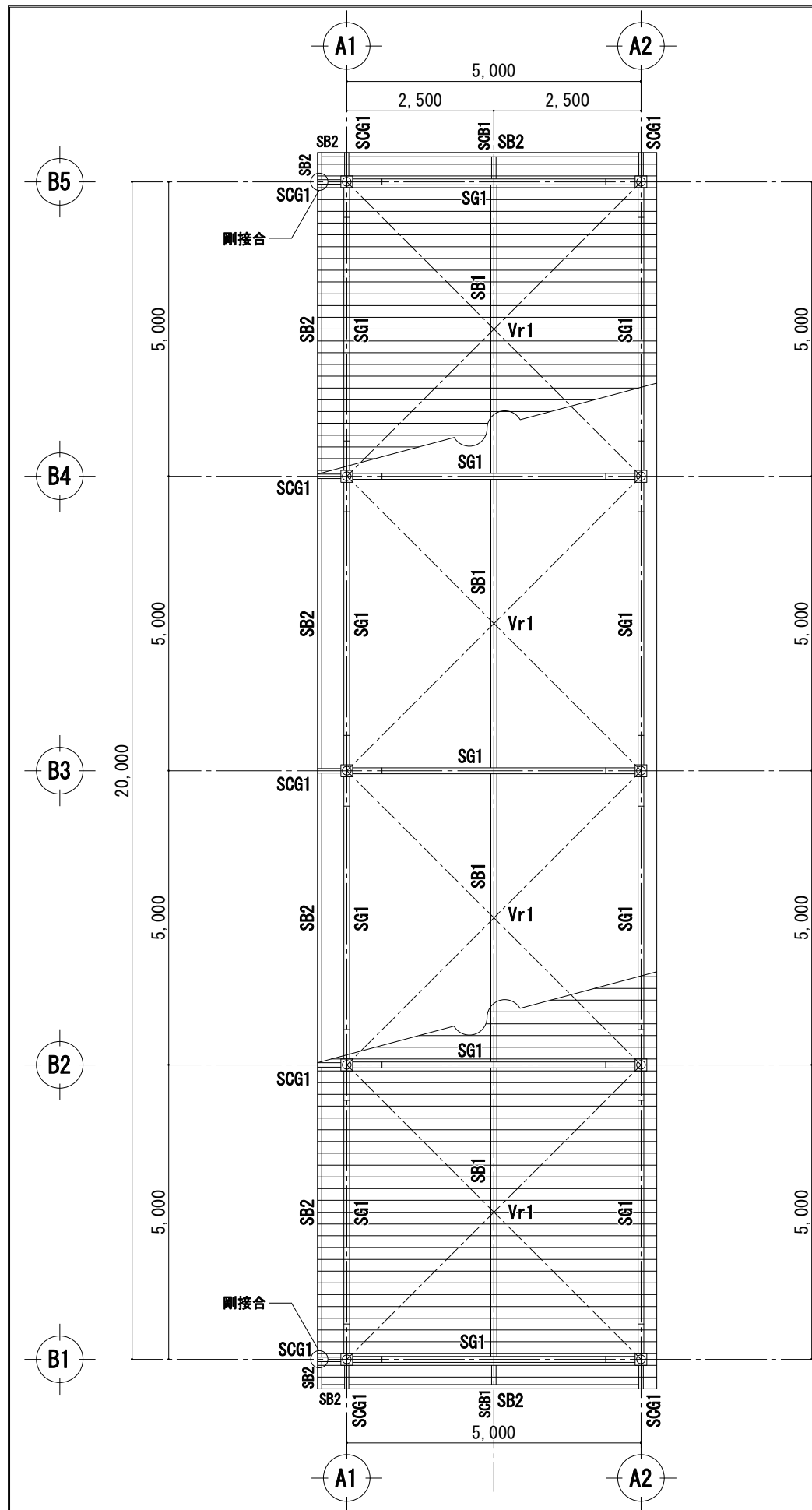
柱サイズ	○ - 139.8x4 (STKR400)
ベースプレート	PL-290 x 290 x 28 (SN400C)
アンカーボルト	M20 L=400 (4本) (SS400)

C1 柱脚詳細図 S:1/10(A-1) S1/20(A-3)

特 記 事 項

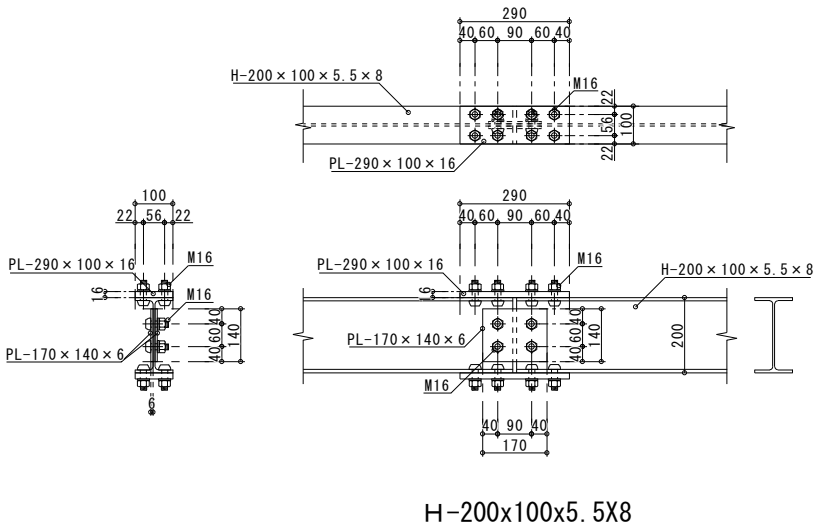
-  土間コンクリートを示す。  
(t=100 D10@200 シングル)



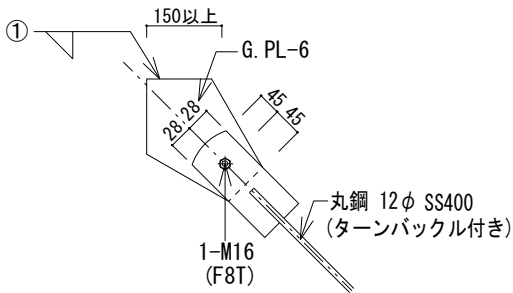


R 階 梁 伏 図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)

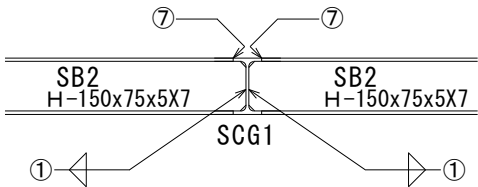
R 階 梁 リ ス ト S:1/20(A-1) 1/40(A-3)				
記 号	SG1	SB1	SB2・SCG1・SCB1	Vr1
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
名 称	H-200x100x5.5x8	H-148x100x6x9	H-150x75x5x7	丸鋼12Φ
材 質	SN400	SS400	SS400	SS400
備 考				G. PL-6



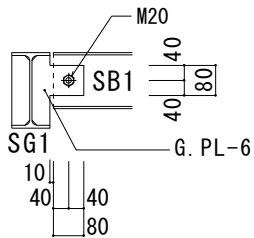
SG1 継手詳細図 S:1/10(A-1) 1/20(A-3)



Vr1(水平ブレース)詳細図 S:1/10(A-1) 1/20(A-3)

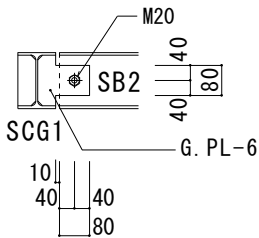


SCG1, SB2 剛接合 詳細図 S=1:20



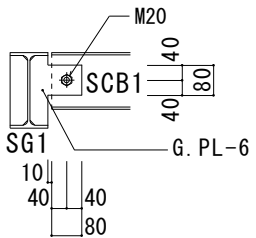
SB1: H-148x100x6x9

SB1 継手詳細図 S:1/10(A-1) 1/20(A-3)



SB2: H-150x75x5x7

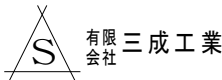
SB2 継手詳細図 S:1/10(A-1) 1/20(A-3)



SCB1: H-150x75x5x7

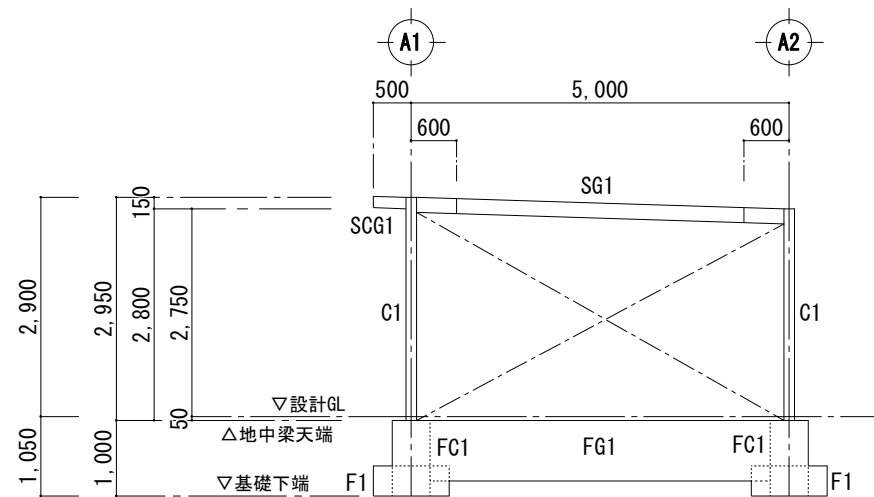
SCB1 継手詳細図 S:1/10(A-1) 1/20(A-3)

備考

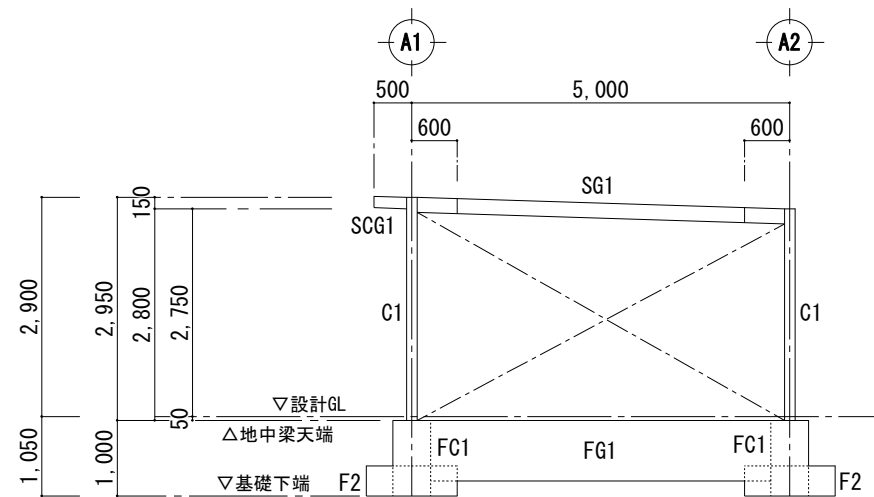


TEL: 098-974-8001 沖縄県うるま市宇堅1322-1  
TEL: 098-974-8059 代表取締役 平川 薫

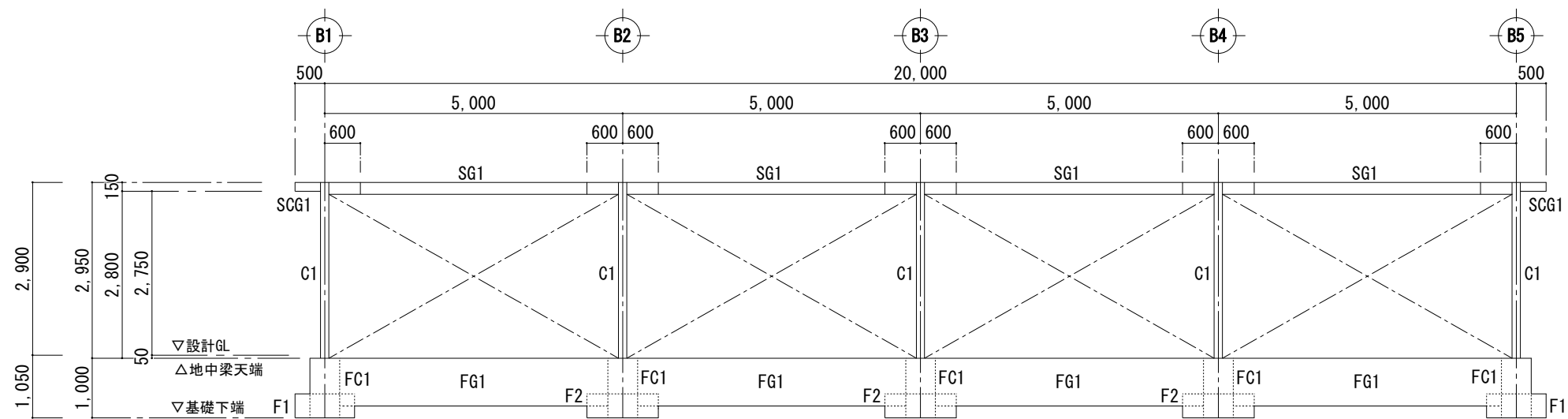
工事名称	具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)	管理者		設計者		担当者		図面名称	R 階 梁 伏 図	図面NO	S-09
工事場所	うるま市宇大田地内	日付		日付		日付		縮尺	図示		



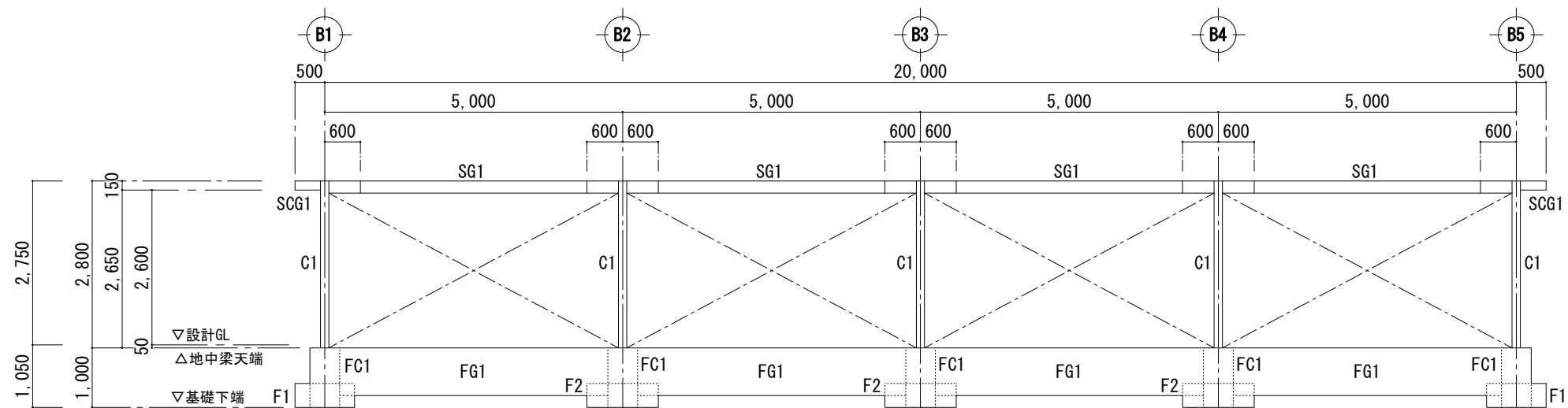
B1, B5通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)



B2～B4通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)




A1通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)



A2通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)

株式会社 創設計  
伊波 克之  
一級建築士 第224803号  
構造設計一級建築士 第9039号

備考	 有限三成工業 会社	TEL: 098-974-8001 沖縄県うるま市宇字堅1322-1 TEL: 098-974-8059 代表取締役 平川 薫	工事名称	具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)	管理者	設計者	担当者	図面名称	軸組図	図面NO
			工事場所	うるま市宇大田地内	日付	日付	日付	縮尺		
								図示		